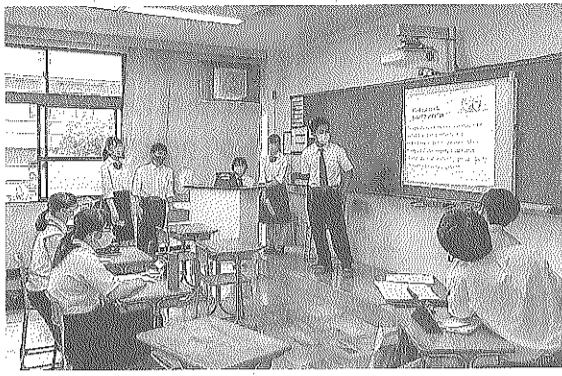


# SDGsに資する探究活動展開

京都府立  
嵯峨野高校

## 各生徒の興味・関心に合わせ

地域連携・海外コロナ型の探究学習に取り組んでいる京都府立嵯峨野高校(橋長正樹校長、生徒947人)。特色の一つが、生徒一人一人の興味・関心に合わせてSDGsに資する探究活動を展開する「アカデミックラボ」だ。(公財)パナソニック教育財団の特別研究指定校としてICTを効果的に活用。学習の成果を高めるため、対面とオンラインを組み合わせたブレンド型学習も展開している。その取り組みとは。

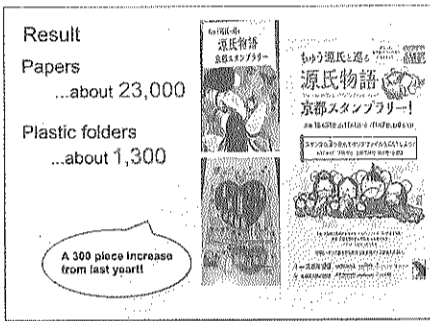


探究活動で取り組んだことを発表している生徒たち

### 国際社会のリーダーを目指し

「自然科学系統(理系)」と「人間科学系統(文系)」に分かれている。「普通科」に加え、専門学科「京都こすもす科」(専修コース、共修コース)がある同校。専修コースは3年間一貫の理数教育に取り組む。共修コースは1年生で文理共通カリキュラムを取り組んだ後、2年生から「リーダーシップ・イニシアティブ」(GLI)を開発。GLIの特色の一つが、地域連携・海外コロナ型の探究学習などを行う「京都グローバルスタディーズ」(KGS)だ。「京都こすもす科」(共修コース)と「普通科」で

### 対面とオンライン組み合わせた学習も



This is the result of our investigation. The number of booklets that we gave out was 23,000 and many people took part in our stamp rally. We handed out over 1300 plastic folders, which was more than last year.

4領域から「ラボ」選択  
1年生では、学校設定科目「グローバルインタラクティブ」(GI)で英語・異文化コミュニケーション能力の基礎を育成する。情報の授業ではICT関連の技術・手法や課題探究の基礎を学習。1年生で培った力を生かした本格的な探究学習は2年生からスタート。同校では、その取り組みを「アカデミックラボ」(アカラボ)と呼んでいる。アカラボには、①人文科学(「京・平安文化論」など)②社会科学(「法学ラボ」など)③国際関係・英語(「ワールドワイドライティングラボ」など)④自然科学(「数学活用ラボ」など)の4領域がある。SDGsの目標に資する探究活動を行うラボ数は現在13。生徒は興味・関心のあるラボを選択して自らの課題を設定し、その解決を目指す。

例えば、毎年、源氏物語の探究活動に取り組んでいる「京・平安文化論」のアカラボがある。京都府が指定する「古典の日」(11月1日)に行っている「源氏物語スタンプラリー」はそのプロジェクトの一つ。源氏物語とゆかりのある神社仏閣などを訪れ、スタンプを集めたら景品がもらえるというイベントで、生徒たちが企画した。ながたみどり氏(イラストレーター)のキャラクターを、端末を使ってスタンプの発表スライド「京平安文化論」の発表スライド(一部抜粋)



京都府立嵯峨野高校は、SDGsに資する教育、すなわち「誰一人取り残さない教育」を実施している。具体的には、生徒一人一人が自分のペースで学習を進め、困難

### 岸 磨貴子 明治大学准教授

ICTを「ちよとよく」活用  
ICTを取り上げる。そこで重要になるのは、画像検索やマップを使う。G1では、日英両言「よく」配置された学習環境で授業が進行する。G境デザインである。生徒の教室では、基本的にはGoogle音声入力教師の指示や課題で分かる。ICTを「ちよとよく」活用。概念が出てくると、その「一分からないこと」は問題にならない。自力解決できる学習環境があるからである。そのデザインにおいてICTがちよとよく活用されている。嵯峨野高校では、生徒の「一分からないこと」は問題にならない。自力解決できる学習環境があるからである。そのデザインにおいてICTがちよとよく活用されている。

「このように取り組みはICT機器が充実してこそ」と語るのは山脇正資教諭。(公財)パナソニック教育財団の特別研究指定校の指定を受け、その助成金でタブレット端末を80台購入したことにより、探究学習に欠かせない情報収集などでの一人一台(パソコン)の使用時間が増えたという。同校では現在、探究学習を通じて身に付けた力(リサーチスキル、プレゼンスキル、ライティングスキル)を見取るためのルーブリック(評価規準)も作成中だ。これまでの成果の一つは、成果発表などを通して

互いの取り組みなどを知って共有することが目的だった」と話す岡本領子教諭(英語科主任、教務部国際エフで行ったため、ネット上に発表内容などを残し、海外の人や京都に來ている留学生らがコメントできるようにした。「英語での多くのやりとりが見える形が共有できて」と話す山脇教諭。こうした生徒の姿に対し、岡本教諭は「自分が書き込んだ英語を読んでくれて、知ることは、探究学習に英語で生徒が主体的に取り組むモチベーションにもつながる」と述べる。また、「自分にとっては身近な単語であっても、異文化で暮らす相手に伝わる説明をしなければならぬため、英語でコミュニケーションを実践する場にもなっている」と話している。

嵯峨野高校 075・871・0723